

風の階段 踏みしめて ～ 自己実現へ向かう道 ～



第17号 平成24年8月29日(水) 発行

「何を根拠に、どういう生き方をめざすのか」 ～ 「発心集」から～

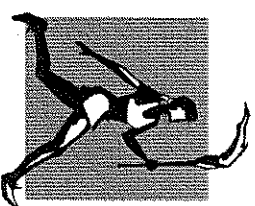
私は、個人的に説話類の道義心あふれる内容が好きである。防災の関わりで、方丈記を題材に授業を行ったが、実は鴨長明の作品として『発心集』は読むべき価値があると思う。
 「四の四 『叡実、路頭の病者を憐れむ事』」というのがある。あらすじはざっとこうだ。

比叡山に叡実阿闍梨そいじつあかくしといって、貴い(祈祷の力のすぐれた)僧がいた。帝のご病気が重くいらつしやつた時に、祈禱のために、この阿闍梨を宮中に招いたところ、当の阿闍梨は、たびたびご辞退申し上げたが、重ねてのご依頼をお断りできなくて、やっと宮中に参上することになった。その中途、道ばたに、みずぼらしい病人が、手足も動けない状態で樂地平べつたくなって寝ていた。阿闍梨はこれを見て悲しみの涙を流しながら、車から降り、憐れんで見舞った。敷物を持って来させて敷かせ、病人に雨風や日光があたらぬよう、上に仮ごしらえの小屋を造って覆ってやり、食物を取り寄せつつ世話をするうちに、かなりの時間がたってしまった。

勅使が、「目が暮れてしまいます。こんなことをしては、遅れて困ります。」と言うと、彼は「御門の所へは、参りません。このように、その旨をお伝えしてほしい」と言う。お使いの人は驚いて、そのわけを尋ねた。阿闍梨は、「私自身、この世を捨てて、仏道に心をまかせてからは、天皇の事だからとて必ずしも尊いとは思わないし、このような身分の低い者といっても、つまらないと思うわけではなく、ただ同じ事だというように思われるのです。帝の方は、病氣平癒のため、靈験あらたかな僧をお召しになれば、山々寺々に大勢いる人のうち誰が参らぬ事があります。全く困る事はありませんでしょう。しかし、この病人については、いとわしく思い、きたながる人ばかりで、近付いて看病をする人は一人もいるはずがありません。もし、私が見捨てて行ってしまうえば、もう少しで命も尽きてしまうでしょう。」と言って、その病人のみを哀れみ、助けていて、とうとう参内せずに終わってしまった。

当時の人々は、これをめつたにない尊いことであると言ったのである。この阿闍梨は、終わりにには極楽往生を遂げた。詳しいことは、続本朝往生伝に記されている。…といった内容である。

私は、前任校の古文の授業で、この題材を扱い、「人の生き方・在り方」を課題として、生徒に意見を問うたことがあった。途上で、一個人にあたらなければ、ある種の名声や出世は、勝ち得たはずである。なぜ影響力のない病人に時間を割き、とどまったのか。生徒の意見も二手に分かれた。もちろん、個人を扱わず、他の者に頼み、自らは出世の使命を果たす、と答えた生徒もいた。人間というものは、一つしか身がないわけだから、どのような生き方を選ぶのか、自分自身の生き方の問題である、ということになったわけである。「出世」か「家庭」か、「理想」か「現実」か。「使命」「天命」も様々在る。あなたは、どのような「生き方・在り方」を選択し、どのように生きていくのだろうか…。



私は、その根拠として、自分自身が何を求めるのか、この拠り所こそが重要だと考えている。

ワークと記述の総合学力を! : 夏季休業終了。7月の記述に7・8月のワーク試験で成果を!

【再掲】 ※センター試験を見据えて、得点の伸びを検証し、学習課題を捉えていきます。

| | | | | | | | |
|-------|---------|----------|---------|---------|---------|----------|----------|
| 記述模試 | 7/7・8 | 10/13・14 | | | | | |
| ワーク模試 | 4/22・23 | 6/9・10 | 7/30・31 | 8/18・19 | 9/22・23 | 11/10・11 | 11/23・24 |

◇「ワーク」模試が多く実施されます。6→7→8月と人によって様々な伸び方があります。

◆就職・公務員試験受験の人は、いよいよ受験の佳境に入ります。健闘と成就を祈っています。